

「北区バリアフリー基本構想【中間評価】（令和3年3月）」参考資料（P67～）

1. 人的対応・こころのバリアフリーの取組（区民部会）

（平成28年度～令和2年度）

（1）こころのバリアフリーに関する意見交換	P2
（2）こころと情報のバリアフリーに関する取組のアイデアの検討	P5
（3）特別支援学校へのアンケート及びヒアリング調査	P7
（4）視覚障害者誘導用ブロック設置地図の活用方策検討	P10
（5）事業者への障害理解の取組・実践	P12
（6）区立小学校へのアンケート調査	P15
（7）視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示の検討	P28
（8）区民への障害理解の実践	P29
（9）VR動画作成に向けた取組	P30

(1) こころのバリアフリーに関する意見交換

<取組の概要>

年度	回	日程	主な内容
平成28年度	第1回	平成28年5月18日	➤こころのバリアフリーに関する意見交換

<主な意見等>

①経験したこころのバリアフリー：理解や配慮があって嬉しかったこと

項目	内容
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントへの参加を積極的に打診された。
視覚障害（弱視）	<ul style="list-style-type: none"> 街中や店舗等で障害を察して「お困りですか？」「何かお探しですか？」など、困難さへの気づき、共感、援助を申し出てくれた。 障害を知って何かできることはないかと尋ねてくれたことや、何々しましょうか、と確認してくれたこと、やれることを一緒に考えてくれた。 その時々に応じて「目」から得られる情報を伝えてもらうこと、補ってもらえること全般がありがたい。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ホームから電車に乗り込んだ際に、たまたま車内に倒れ込んでしまったが、見知らぬ人が素早く手を差し伸べて起こしてくれた。 路線バスの運転手の車内放送がはっきりして、的確な情報を伝えてくれた。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 空港では航空会社の介助等の窓口があり、あらゆる問い合わせに対応している。搭乗に際しては高齢者・障害者・妊産婦・幼児連れが常に最優先である。 過去に宿泊した旅館で、フロント棟から浴場前まで移動カーで案内されたり、別の風呂のない宿に宿泊した際に夜中遅くに入浴させていただいたりした。 雨の日に車いすの方がバスに乗る際に、運転手がさっと降りてきて手順よく操作して車いすを定位置に固定させ、安全を確認し発車した。業務とはいえ、雨の中淡々と作業されるその姿に感心し、またその行動をじっと見守る乗客がいた。 宿泊したホテルのレストランで、障害のある息子の料理を食べやすい大きさにカットしてきれいに盛り付けてくれた。 車いす使用者3人、介助者3人でカラオケに行った際、こちらからお願いしていないのに、広い部屋に案内し、テーブルとイスも動かして、快適な空間を作ってくれた。 満員電車から降りる時、周りの方たちが協力してくれた。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ベビーカーで狭い道を通っている時に対向者が道を譲ってくれた。 飲食店にてベビーカーが置きやすいように広めの席に案内していただいた。 階段（2、3段）を下りるときにベビーカーを持つのを手伝っていただいた。 スーパーのレジで会計済みのカゴを台の上まで運んでいただいた。

②経験したところのバリアフリー：理解や配慮が不足していると感じたこと

項目	内容
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害者へのイメージが大きな声を上げる、暴れる等だったらしく、イベントへの参加を断られた。
視覚障害（弱視）	<ul style="list-style-type: none"> 外見からわかりにくく、拳動が自然でないことや姿勢も悪くなりがちのため、いぶかしむかのような視線を受けると、居心地の悪さを覚える。 「見える」か「見えないか」だけではなく「見えにくい」という人もいることが理解されていないこともまだ多くある。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 障害者用の駐車スペースに該当しない人が停めているのを見るととても不愉快である。 電車内の優先座席を占領してスマホをいじっている若者の姿もどうかと思う。 駅員さんの配置の関係で、乗りたい時刻の電車に乗れないことがある。 「混んでいる時間帯に乗らないでください」「帰りは何時ですか」「またこの駅を使うのですか」と言われた。 バスに乗った時、乗客から「車いすの人が乗ると時間が掛かって迷惑」と言われた。 「駅員さん呼んでできます」と頼んでもいないのに呼びに行かれた。 改札へ向かう通路を歩いていたら、「車いすの人が通っているから道を空けてください」と知らない人が叫んだ。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ベビーカーを押して歩いて歩くスピードが遅かったため、駅の改札を通る際に後ろの人に舌打ちされた。 エレベーターにたくさんの方が並んでいてすごく待たなければならなかった（階段やエスカレーターも利用できる方がエレベーターを利用しているように見えた）。 喫煙エリアに近付くと歩きタバコをしている人が多い。

③こころのバリアフリーについて、日頃から心がけていること

項目	内容
視覚障害者に対して	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者の方が歩行している時に迷っているように見えたら声を掛け誘導する。
高齢者に対して	<ul style="list-style-type: none"> 電車内で高齢者が立っていたら声を掛け自分が座っている席を譲る。
言語障害者に対して	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり聞き取るよう努力している。
ベビーカー・車いす使用者に対して	<ul style="list-style-type: none"> ベビーカー使用時以外はエレベーターを使用しない。 電車ではベビーカーや車いすを優先的に置くスペースは避けて乗車する。 電車・バスの乗り降りや段差など手伝いが必要な場合は声をかけるようにする。 多機能トイレはできるだけ使用しない。どうしても使用しなければならない場合は、車いすやベビーカー使用者が待っていないことを確認してから使用する。
全体に対して	<ul style="list-style-type: none"> 人の上にも人の下にも立たず、誰にも敬意をもって接する。 笑顔で声掛けする。（「こんにちは」「お先にどうぞ」「ありがとうございます」など） 焦らず心に余裕を持ち、他人の行動が終了するまで焦らずに待つ。 外出する際は、自分自身の体調を整えておく。 他人に迷惑がかからないように心がけている。 支え合いが大切だと思うので、何事も相手の身になって考えている。 話すときに身振り手振りをできるだけ交えるよう心がけている。案内説明は実物や掲示・サイン等をできるだけ引用する。

④今後区民部会を通じて考えてみたいこと、発信したいこと

項目	内容
全体の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・区民部会委員が当事者としての気づきを活かして、意見を出すだけでなく、具体的な施策に関与して提案できることに取り組む。 ・何かしたい気持ちはあるが「やり方がわからない」「何をしたいのかわからない」という人が多いので、障害当事者の立場から、こんなことをしてほしいとコミュニケーションを図っていく。 ・区民部会以外の当事者の声を幅広く収集する機会を設ける。 ・先進的な事例を視察して学ぶ。 ・基本構想の検討の中で得られた情報や成果を積極的に活用し、情報を発信する。
障害当事者の活動促進	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者のまち理解推進、積極的な外出・まち歩きの支援をする。 ⇒教養講座、援助依頼講座、まちなかガイダンス（切符の買い方、電車・バスの乗り方など）
普及啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころのバリアフリー」ガイドブックなどを参考にして、私立小中学校や都立中高一貫校、福祉を指導している学校の生徒たちに知らせる。 ・福祉関係の各種講演会の際に、こころのバリアフリーについても話をする。 ・区で作成したヘルプカードを続けて普及啓発する。 ・体験学習の支援をする（学校教育、大人を対象とした障害体験）。 ・障害理解の推進の支援をする。 ⇒学生や社会人を対象に事業所、駅頭での介助体験、交流、研修、出前講座等 ・歩きタバコや放置自転車など明らかに問題であるとわかっているようなことが改善されていないため、マナー違反をしてしまう人達にどのように働きかけていくべきか考える。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人的支援を推進できるアドバイザーの育成、人材ライブラリーの整備を支援する。 ・事業者・職員向けの取組として、接客や看板づくりの体験、介助体験を支援する。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・区民部会を活用してまちあるきでの定時点検をする。 ・施設等計画段階から当事者意見を反映できる仕組みをつくり、区民部会に関わっていく。 ・施設・設備利用にあたって配慮が必要なことを伝えていく。啓発冊子を作成する。 ⇒だれでもトイレの必要性について ⇒エスカレーター、エレベーターの利用について ⇒車いす利用者用駐車施設について ・駅前での乗り換え案内リーフレット作成や指差しガイドボードの設置を支援する。 ・知的障害者に対するケアを考える。 ・交通誘導員の駅版（ボランティアなど）の配置を働きかける。

(2) こころと情報のバリアフリーに関する取組のアイデアの検討

<取組の概要>

年度	回	日程	主な内容
平成 28 年度	第 2 回	平成 28 年 8 月 24 日	▶こころと情報のバリアフリーに関する取組のアイデア出し

<主な意見等>

①まちを利用する人や区民への働きかけ

プログラム	取組案
パンフレット作成	<ul style="list-style-type: none"> まちで困っていること、配慮してほしいことなどをまとめたパンフレットを作成し、実際にまちで配布する。
啓発ツール作成	<ul style="list-style-type: none"> 町会・商店街掲示板へのポスターの掲示を通じて、ヘルプカードや認知症サポーター（オレンジリング）等の PR や、マナー啓発を行う。
交流イベント	<ul style="list-style-type: none"> 福祉まつり等のイベントで、障害者と一般の人の交流の機会を設ける。
障害当事者によるセミナー	<ul style="list-style-type: none"> 障害者による講話（どんな時に困っているか、まちなかのバリアフリーの工夫など） 体験学習（介助方法のレクチャー、車いす体験など） 障害者との意見交換会 教育委員会や社会福祉協議会が実施しているプログラムなど
要援護者の防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練に高齢者、障害者等が参加し、支援の方法や日常からの関わりの必要性について意見交換を行う。

②子どもへの働きかけ

プログラム	取組案
学校への出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 障害者による講話（どんな時に困っているか、まちなかのバリアフリーの工夫、こころのバリアフリーの重要性についてなど） 体験学習（介助方法のレクチャー、車いす体験など） まちのバリアとバリアフリーを探すワークショップ 教育委員会や社会福祉協議会が実施している福祉教育プログラムなど
特別支援学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校間交流教育などによる連携の充実 副籍制度の充実
パンフレット配布	<ul style="list-style-type: none"> まちで困っていること、配慮してほしいことなどをまとめたパンフレットを作成し、生徒などに配布する。

③事業者への働きかけ

プログラム	取組案
パンフレット作成	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所、薬局、金融機関などで、少しの工夫でできる合理的配慮について検討してほしいことをまとめたパンフレットを作成し、配布。
福祉のまちづくりサポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー整備や取組を行おうとしている施設からの申し出に対応し、当事者参加によるバリア点検を行い、改良のアイデア出しを行う。 →対応の内容に応じて「やさしいお店認定証（仮）」を発行するなども考えられる。
接遇研修	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業者の社内会議等の場を活用し、当事者との意見交換。 ・擬似的な窓口を用意し、当事者への接遇の練習を行う。 ・各事業者や商店街と当事者合同のワークショップを行い、実際に店舗を利用しながら問題点を把握する。
コミュニケーション支援ボード開発	<ul style="list-style-type: none"> ・指さして買い物や窓口の手続きができるようなツールを開発し、商店街などで導入する。

④障害のある当事者への働きかけ

プログラム	取組案
外出促進プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだんあまり外出をしない高齢者、障害者等を対象に、外出時の工夫や支援の頼み方などをレクチャーし、積極的な外出を促す講座を開催する。
情報収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・区民部会以外の当事者の声を幅広く集めるためのアンケートやヒアリングの実施 ・既存の情報（視覚障害者誘導用ブロック設置地図やことばの道案内、特定事業の実施状況等）を活用した、わかりやすいバリアフリー情報の発信を検討する。
ヘルプカード普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・「持っててよかったヘルプカード！」事例集など、ヘルプカードの活用イメージがわかるパンフレットを作成し、高齢者・障害者関係施設などで配布する。
コミュニケーション支援ボード開発	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者や知的障害者などが、指さして買い物や窓口の手続きができるようなツールを開発し、使い方の練習や、持ち歩きを促すことで外出を支援する。

(3) 特別支援学校へのアンケート及びヒアリング調査

<調査目的>

北区バリアフリー基本構想【地区別構想（赤羽地区）】で掲げた「人的対応・こころのバリアフリーの推進」に向けて、障害のある当事者がどのような『こころのバリア』に直面しているかを把握し、その対処や解消方法などについて事業者と議論し、相互理解を深める。

<調査概要>

北特別支援学校・王子特別支援学校・王子第二特別支援学校の生徒及びその保護者を対象に、アンケート調査票を配布した。また、アンケート回答者の一部の方に対して、アンケート調査結果をもとにヒアリング調査を実施した。

【アンケート調査概要】

項目	生徒用	保護者用
配布対象	王子特別支援学校の生徒	北特別支援学校・王子特別支援学校・王子第二特別支援学校の生徒の保護者
配布数	183名	① 王子特別支援学校 183名 ② 王子第二特別支援学校 204名 ③ 北特別支援学校 187名
回収数	18名（回収率：9.8%）	① 王子特別支援学校 28名 ② 王子第二特別支援学校 43名 ③ 北特別支援学校 26名 （回収率：16.9%）
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 個人属性 外出時に周りの人が助けてくれたり、やさしくしてくれて、うれしかったこと 外に出かけたときに、困ったり、いやな思いをしたこと 行ってみたいけれど、行けないところ インタビュー調査の可否 	<ul style="list-style-type: none"> 個人属性（回答者及び子ども） 子どもとの外出時に、うれしかった手助けやことば 子どもとの外出時に、困ったり、嫌な思いをしたりしたこと いつもはあきらめているけれど、こんな対応があればできるのにとと思うこと インタビュー調査の可否
調査期間	平成29年7月3日（月）～7月31日（月）	

【ヒアリング調査概要】

項目	生徒用	保護者用
配布対象	王子特別支援学校の生徒	北特別支援学校・王子特別支援学校・王子第二特別支援学校の生徒の保護者
調査数	1名	① 王子特別支援学校 4名 ② 王子第二特別支援学校 1名 ③ 北特別支援学校 4名
調査項目	アンケート調査結果をもとにしたより具体的な内容	
調査期間	平成29年9月26日（月）～10月24日（火）	

<調査結果>

①利用したいが行きにくい施設とその理由

項目	理由
元気ぷらざ	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的施設に行くまでの交通手段がバスしかなく、乗換が面倒。 ● 施設が混雑している。 ● 利用するのに異性介助のため、更衣室が利用できない。 ● 他の利用者に迷惑を掛けるのではないかと気になる。
中央公園	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車スペースが施設やその周辺にない。
公園全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園の遊具が健常児向けで行きづらい。
店舗全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 階段しかないところやエレベーターの位置が遠すぎる場所がある。

②うれしかった手助けやことば

項目	内容
鉄道駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 割引切符で改札を通る際に、混雑時でも優先的に通してくれるなど、駅員さんがいつも親切に対応してくれる。
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 買ったものを袋に詰めてくれたり、カゴを運んでくれたりした。

③困ったり、嫌な思いをしたりしたこと

項目	内容
電車・バス	<ul style="list-style-type: none"> ● 見知らぬ人からじろじろ見られる。
鉄道駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 動作が遅かったり、座り込んでしまう子どもに対して舌打ちをしたり、しつげがなっていないと言われたりした。
公園	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊んでいるときに周りの子どもたちに「変な人がいる」などバカにされる言葉を言われた。子どもなので仕方がないが、教育を考えてほしい。

④その他の課題

項目	内容
社会への発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 何か嫌なことに出会うと、もう行かないとなってしまいがちだが、施設側と一緒に考えようというスタンスであれば行こうと思えるのではないかな。
周囲のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅では戸惑ったり、困ったりしている時に駅員さんが気づいて声をかけてくれると有難いが、こちらからも発信する、伝える勇気も大事かと思う。
障害理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さい頃からの教育、啓発が大事で、障害のある人に接することで、その人たちが見えるようになる。子どもはなんでこういう状況かを理解できていないし、子どもからの質問に答えても理解できていなかったりするが、大きくなってそれがわかることがある。

＜調査結果の活用＞

アンケート・ヒアリング調査で得られた生の声から特徴的な事例をわかりやすく整理し、周りの人や事業者はどのような配慮ができるのかを伝えるリーフレットにまとめ、協力いただいた特別支援学校やその他の区内の教育施設、商店街連合会等に配布する。

また、区内の個別の施設への意見については、基本構想の特定事業と並行して、区民部会と事業者、施設職員等で意見交換を深め、ソフト面での具体的な改善方策の検討に努める。

【その他、お寄せいただいたご意見の一部ご紹介】

アンケート ※匿名のまま掲載しています。

うれしかった手助けやことば

- ・カラオケ店：「また、きてください」といわれました。やさしく教えてくださいました。(障害者：主婦)
- ・コンビニ店：「どんなに、(息子さん)一人で買いに来てくださいますか。」
- ・児童館さん：やさしい言葉かけで息子が興味を持ったもの(買物袋やチラシなど)をやらせてくれて、空間の間隔もゆとり見せてくれました。
- ・銭湯販売店：本人の説明が上手にできなかったのですが、スタッフの方が丁寧に丁寧に丁寧に、優しく対応してくれました。話しをするための障害があることがわかったのですが、丁寧に説明していただくという気持ちで、丁寧に説明していただきました。
- ・レストラン：バギー使用の子どもと昼食時、スタッフの方が入りやすいテーブルを案内してくれました。

困ったり嫌な思いをしたりしたこと

- ・電 車：「ちょっと読んでいたのでなんでこんな時間に車いす？という顔をされました。やむを得ず乗っているのでもスムーズに乗せてほしいです。(何台か待ちました)。
- ・電車や駅：「動作がおかしくって、借り込んで、もう子どもを待たせたり、子どものしつけはキチンとしら。」と言われたりしました。理解してほしいです。
- ・エレベーター：先に車いすでエレベーターに乗っていて、詰めるのはむずかしいのに急に車いすに乗りました。本当に困っている人だけ利用してほしい。2・3回乗るのを待つ事も多いです。
- ・パ ス：「階段が滑りやすいので、当時は途中でお断りもしたいのに、(ペビーカーは)ダメです。」と子どものバギーを滑らすのを手伝ってくれて、スロープすら出してもらえませんでした。
- ・公 園：「うちの子どもが公園遊びの仲間と誘われてもらえませんでした。障害の子のことを理解してもらうのはすごく難しいとつくづく思いました。

インタビュー

うれしかった手助けやことば

- ・小 児 科：先生が「お母さん一人で抱え込みず、なんでも周りに相談しなさい」といってくれたのがうれしかったです。
- ・幼 稚 園：入園にあたり、お子さんの思いは障害とは思わない、いろいろなお子さんがいる中で一人である、との説明を受け、そのような姿勢を聞いてくれました。
- ・副都心交流：子どもが3年生以上か、担任の先生の配慮で2階の3年教室ではなく1階の多目的スペースで授業を行うことになりました。
- ・パ ス：いつも友達と乗っていますが、その友達がいなくなると、障害者自分を自分で押す勇気が出て、それに運転手さんが気づいてくれて降りしてくれました。


困ったり嫌な思いをしたりしたこと

- ・障害者専用駐車場：本館に必要なら私たちも使いたいところが多いです。
- ・エレベーター：健康者は優先的に使っていますが、車いす利用者にとっては必需品で絶対に必要なものに、健康者が先に乗ってしまいます。
- ・ト イ レ：ペビーカーはあれだけ通して来たのに、大きいペビーカーはとでも少なく感じます。
- ・見 物：小さい子供の前にはとても大事で、家では出来ないこと、広いスペースなら出来ることなどあり、同じ年齢の子と遊ばせたり、ママ同士の間隔も取れるのに、近くで見物する場所がなくて入れないのも残念です。

「なにか嫌なことに出会うと、もう行かないとなってしまっていますが、施設側が一掃に考えようとしてくれる、また行くことと思えるのではないですか。」

本区では平成27年度にバリアフリー基本構想(全体構想)を策定し、平成28年度は赤羽地区、平成29年度は蓮根地区、平成30年度は王子特別支援学校の学区構想の策定に取り組みしています。各区別構想の策定にあたっては、区民によるまちあるき点検を積極的に行い、単年度の王子特別支援学区も予定しています。北区ホームページでは、このまちあるき点検の参加者を募集したり、策定にあたっては「バリアフリー」を受け付けていますので、北区のバリアフリー整備に向けて、今後とも皆さまの積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。

平成30年3月発行
資料作成にあたり「バリアフリー」に関する資料を参考にしています。
印刷数：100部
発行所：北区福祉課 福祉推進課 福祉推進課 福祉推進課
TEL:03-3568-9152 FAX:03-3568-4336
〒114-8501 東京都北区赤羽1-15-22



東京都 北区

まちのバリアフリーに向けて

区内の王子特別支援学校・王子第二特別支援学校・北特別支援学校の生徒・保護者の皆さまからお寄せいただいた「まちなかのバリア」に対するご意見と今後に向けたバリアフリー整備

外出先で「うれしかった手助けやことば」・「困ったり嫌な思いをしたりしたこと」に関するアンケート調査・インタビュー調査結果のご報告 (平成29年7月～10月実施)

平成30年3月
北区バリアフリー基本構想策定協議会

元気ふらぶる更衣室・入館ゲート・ウォーター 슬라이ダー

「家族で訪ねることができる更衣室がある」と好評に行けるのが「知覚障害の息子が一人で入館ゲートを通るのは難しいので」「やりたい」というウォーター 슬라이ダー、親同伴はダメですか?」

二人以上ではスライダースのから飛び出してしまっても安全に配慮して禁止しています。

区の障害福祉課の窓口

「手続きの難い、子どもを待たせられるキッズスペースのような場所があるとよいのですが…」

手帳なため難しい状況です。なおお預けをされないよう、「丸イスではなく、ひしかり付きのイスを使用する」「窓口まわりの物を整理する」「職員による見守り」等の対応を行っています。

小学校の校庭開放・利用

「小学校の校庭で遊べるのは、地域の子どもたちと触れ合える貴重な機会。注目を活用できませんか?」

土曜日の校庭開放は「わくわくひろば」に登録された方の利用のみですが、日曜日の校庭開放は、だれでも利用できます。

教育広報紙「くおん」第75号(平成29年4月号)も併せてご覧ください。

中央公園の障害者専用駐車場

「身障者の駐車場が狭くなってしまった!?!」

こちらです!

不適正利用が多かったため、2台分を公園駐車場へ移設しました。利用方法は、北区ホームページまたは、出口検察機種の指示看板をご確認ください。

中央図書館のバス停の雨よけ

「コミュニティバスのバス停に屋根がなくて雨に濡れるのは困ります!」

現状は、公園管理上のルールで上屋の設置が難しい状況ですが、再度担当する課に改善を呼びかけています。

北とびあ飲食店

「レストランに行きたい!」車いすでも入れますか?」

車いす使用の方も、ご利用いただけます。

テーブル手前の手前から床までの寸法

- ・マリジンドイ 約84cm
- ・山崎 約70cm
- ・原野店 約68cm

※LIFE GOOD TIME PLACE

移動支援サービス

「通学時の移動支援サービスがもっと利用しやすくなりませんか?」

本区では小学生以上のお子さんを対象に、一定条件のもとで通学や通所での移動支援サービスを受けられるようになりました。車いすの活用も増えていますが、ヘルパー不足も課題になっています。

バギー・子ども用車いす

「ペビーカーとまちがわかれて、バギーと車いすを混同してしまっていました!」

まちあるき点検や新築事業の中で、ペビーカーの中で体験していただくよう、お知らせいたします。

商店街のコロッセでも、レンジや椅子が対応していません。地域力を発揮させていただきます。

地域力がある十島の商店街

「息子が一人で歩いていても、何かあれば補助の方で助けられるので、とても安心です。」

商店街のコーナーでも、レンジや椅子が対応していません。地域力を発揮させていただきます。

区民・事業者部会で意見交換

「駅員さんや役員さん、〇〇してほしいのですが…」

区民からの要望は事業者にも伝えています。意見交換を深めています。

北区の公園整備

「親子で一緒に楽しめる遊具があったらいいのに…」

魅力ある公園づくりに向け、バリアフリーにより配慮した遊具の導入を進めています。

ノンステップバスの運行

「王子第一特別支援学校-中央図書館までのルートは、病気の人が乗りたい人もいるのに、ノンステップバスが少ないのでは…」

この路線の福祉バス(ノンステップバス)の導入率は9.2%です。すべてノンステップバスになるよう、今後車両の入れ替えを進めます。

王子特別支援学校、王子第二特別支援学校、北特別支援学校の生徒・保護者の皆さまには、外出先で「うれしかった手助けやことば」・「困ったり嫌な思いをしたりしたこと」に関するアンケート調査およびインタビュー調査にご協力いただき、誠に有難うございました。

アンケートは116名の方から、またインタビューは9名の方にご協力いただき、多くのご意見を寄せいただきました。その中から、関係者に早速お知らせできていることや、もしくは整備が難しい状況にあることが分かったことなどを中心に紹介いたします。

すべてのアンケート結果を公開しない場合は、北区ホームページより、第2回北区バリアフリー基本構想策定協議会(平成29年10月6日開催)の資料をご参照ください。

リーフレットのイメージ

(4) 視覚障害者誘導用ブロック設置地図の活用方策検討

<地図の作成経緯と現況>

北区と認定NPO法人ことばの道案内の協働事業『点字ブロック点検・検証並びに広域的点字ブロックデータベース制作事業』では、視覚障害者誘導用ブロックの設置状況や色の劣化、がたつき、ブロック上の占用物の有無などについて利用者の視点で現状確認を行い、その結果をもとに、「点字ブロックデータ検索サイト（以下、検索サイト）」を作成している。これまでに王子地区と赤羽地区の検索サイトが完成し、平成29年度は、上中里地区の作成を進めている。

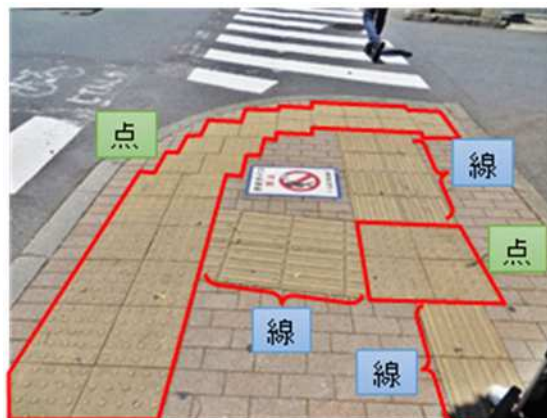
検索サイトでは、地図で視覚障害者誘導用ブロックの設置状況が一目でわかり、視覚障害者以外の方にも状況をわかりやすく伝えることができるようになった。これにより安心して歩行できる空間の確保や相互理解を深めることが期待できるが、データベースの将来的な維持管理や具体的な活用方策については未定の状況となっている。

<地図の作成方法>

検索サイトでは、どこにどのように視覚障害者誘導用ブロックが設置されているのかが掲載されている。主に警告ブロックを中心として一塊になっている視覚障害者誘導用ブロック（点）と、主に誘導ブロックを中心として点と点を繋ぐ視覚障害者誘導用ブロック（線）にそれぞれIDがふられており、以下の情報が整理されている。

【掲載情報の内容】

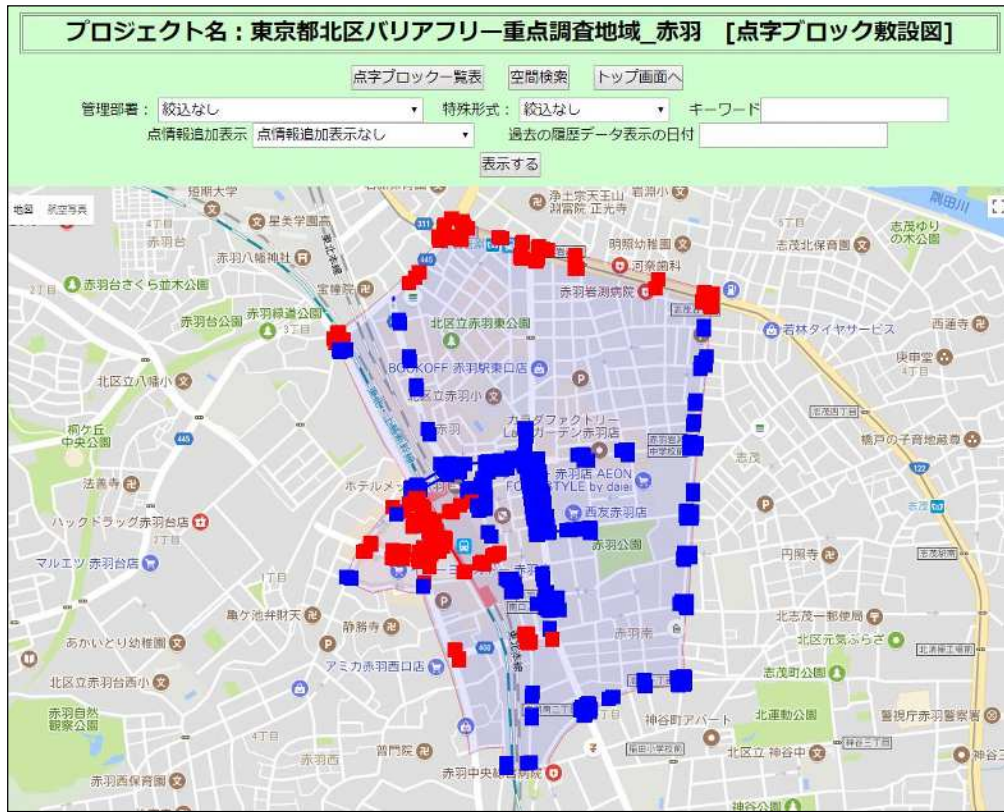
- 敷設位置
- 黄色の警告ブロックの枚数
- 黄色以外の警告ブロックの枚数
- 黄色の誘導ブロックの枚数
- 黄色以外の誘導ブロックの枚数
- 点字ブロック上の半径50未満のマンホールの枚数
- 点字ブロック上の半径50センチ以上のマンホールの枚数
- 点字ブロックの敷設距離（M）（線情報のみ）
- 点字ブロックの不備に関する情報
- 敷設状況の写真（線情報は不備があるもののみ）



点と線の区別

＜地図の掲載状況＞

検索サイトでは、以下に表示されている■（都道）■（区道）部分をクリックすると、点情報の詳細な調査結果が確認できる。また、点字ブロックの不備に関する情報等も確認できる。



視覚障害者誘導用ブロック設置地図（赤羽地区）

＜活用方法の検討＞

項目	内容
視覚障害者誘導用ブロック設置地図の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路管理者の管理用のデータベースとしては良いが、この情報のままでは区民や視覚障害者による活用は考えにくい。 ● 情報を活用して、視覚障害者が使えるような音声情報（ことナビ）を作成できる。 ● 情報をもとに、視覚障害者以外の方にも有益なブロックの活用方法を検討してはどうか。

地区別構想では、道路の共通の配慮事項として「視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内誘導の仕組みや表示方法等を検討する。」と定めており、道路特定事業でも同様の事業を位置づけている。そこで、協議会での意見を踏まえ、今後は、駅周辺から主要な生活関連施設への誘導について、視覚障害者誘導用ブロックのネットワークを活用した路面標示等の方法や、これを活かした理解促進・啓発の方法等を区民部会や区、道路管理者等との意見交換を通じて検討していく。

(5) 事業者への障害理解の取組・実践

<取組の概要>

年度	日程	主な内容
平成 29 年度	平成 29 年 10 月 31 日	1. 合同意見交換会での障害理解の実践<その1>
	平成 29 年 11 月 14 日	2. バギー（子ども用車いす）の周知
平成 30 年度	平成 30 年 10 月 15 日	3. 合同意見交換会での障害理解の実践<その2>

1. 合同意見交換会での障害理解の実践<その1>

区民部会・事業者部会合同意見交換会において、区民部会委員の井上部会長及び花山委員により、出席した事業者に対し、視覚障害を中心とした障害理解に関する講話や障害疑似体験を実施した。

視覚障害の特性について井上部会長より解説した後、花山委員のレクチャーのもと、弱視、視野狭窄、視野欠損などの視覚障害を出席者が体験し、目が不自由な状態で周囲の人とコミュニケーションを図ることで、視覚障害者はどういったことができるのか、どういった助けがあることができるかが広がるのか、また、どういった配慮が必要なのかなどについて理解の促進を図った。

また、車いす使用者用の記入板など障害者が使える便利グッズの紹介も行った。



視覚障害疑似体験の様子



車いす使用者用の記入板

2. バギー（子ども用車いす）の周知

ベビーカーとバギー（子ども用車いす）の違いについてあまり認識されていない現状を踏まえ、第3回協議会において、事務局よりベビーカーとバギーの違いについて解説を行った。

【ベビーカーとバギーの違い】

- バギーはベビーカーとは全く違うものであり、車いすとして認識するべきものである。
- バギーをたたむのは車に乗せて運搬するときだけであり、たたんで持ち運ぶことは想定していない。あくまで補装具である。
- バギーはベビーカーと比べると重く、たたむのに手間がかかり、たたんでも大きい。機種によって異なるが、ベビーカーの重量は3～9kg程度なのに対し、バギーの重量は10kg以上のものがほとんどであり、さらに人工呼吸器等の医療器具を載せると数十kgになる。



バギー（子ども用車いす）



重度心身障害児親子の会「スマイリーサン」が製作したバギーマークのステッカー

- 重度心身障害児親子の会「スマイリーサン」とは
障害を持つ子どもたちが居心地よく過ごせるようにすること、またその保護者たちをサポートすることを目的とし、北区を中心に活動する団体。北区地域振興課の支援を受け、上記のようなバギーマークのステッカーや缶バッジを作成した。そのほか、東京都障害者シンクロナイズドスイミング発表会への出場や、親子運動会などの企画・運営などの活動を行っている。

3. 同意見交換会での障害理解の実践<その2>

区民部会・事業者部会合同意見交換会において、区民部会委員の井上部会長及び花山委員を講師として、出席した区民及び事業者の方々に視覚障害や肢体不自由の疑似体験をしていただいた。

視覚障害の特性については花山委員より、車いす使用者の特性については井上部会長より解説いただき、各委員のレクチャーのもと、出席者は当事者及びその介助者の疑似体験を行った。参加者には、視覚障害者や車いす使用者が移動するにあたり、どういったことができ、どういった介助が必要なのかなどについて、体験いただき、全体で意見交換を行うことで、相互理解の促進を図った。

今後も機会をとらえ、バリアフリーに取り組む事業者等への障害理解の実践の場を設ける。



障害の疑似体験の様子

【参加者の感想】

- 店舗で視覚障害者のお客様をご案内する際の参考になった。
- 声かけの大切さと心強さを実感した。危険を知らせる大切さを知り、実践しようと思う。
- 車いす体験では、エレベーター待ちによる「時間のバリア」を痛感した。
- ハード面だけでなく、ソフト面での対策や協力（車いすの補助や介添など）が重要と感じた。

(6) 区立小学校へのアンケート調査

<調査目的>

「人的対応・こころのバリアフリーの推進」に向けて、子どもへの働きかけに関する具体的な方策を検討するにあたり、その検討材料となる子どもの障害者への配慮状況を把握する。

<実施概要>

年度	調査期間	配布対象
平成 30 年度	平成 30 年 7 月～10 月	以下の区立小学校 11 校及び他区立小学校 1 校の小学 6 年生 王子小学校、王子第一小学校、王子第二小学校、王子第五小学校、荒川小学校、豊川小学校、堀船小学校、柳田小学校、東十条小学校、十条台小学校、としま若葉小学校、他区小学校
平成元年度	令和元年 12 月	区立小学校全 35 校の小学 6 年生

1. 平成 30 年度 アンケート調査

<調査概要>

区立小学校 11 校及び他区小学校 1 校の児童を対象に、アンケート調査票を配布した。

【アンケート調査概要】

項目	内容				
調査期間	平成 30 年 7 月～10 月				
配布対象	以下の区立小学校 11 校及び他区立小学校 1 校の小学 6 年生 王子小学校、王子第一小学校、王子第二小学校、王子第五小学校、荒川小学校、豊川小学校、堀船小学校、柳田小学校、東十条小学校、十条台小学校、としま若葉小学校、他区小学校				
配布数	王子小学校	89 名	堀船小学校	47 名	
	王子第一小学校	116 名	柳田小学校	29 名	
	王子第二小学校	39 名	東十条小学校	62 名	
	王子第五小学校	30 名	十条台小学校	21 名	
	荒川小学校	20 名	としま若葉小学校	43 名	
	豊川小学校	46 名	他区小学校	69 名	
				合計	611 名
	回収数	王子小学校	86 名	堀船小学校	44 名
王子第一小学校		115 名	柳田小学校	31 名	
王子第二小学校		38 名	東十条小学校	61 名	
王子第五小学校		29 名	十条台小学校	22 名	
荒川小学校		20 名	としま若葉小学校	44 名	
豊川小学校		44 名	他区小学校	69 名	
			合計	603 名	
			回収率	98.7%	
調査項目	①まちでの当事者（車いす使用者、視覚障害者、ベビーカー利用者）との遭遇の有無 ・当事者との遭遇の有無／遭遇場所 ・遭遇時の当事者の状況 ・当事者に遭遇した際の対応 ②まちの「バリア」について、気付いたことや考えていること				

※平成 30 年 5 月時点で公表されている児童数をもとに調査票配布数を設定しており、転出入の状況により回収数が配布数を上回る学校がある。

<調査結果>

【まちでの当事者との遭遇の有無や対応について】

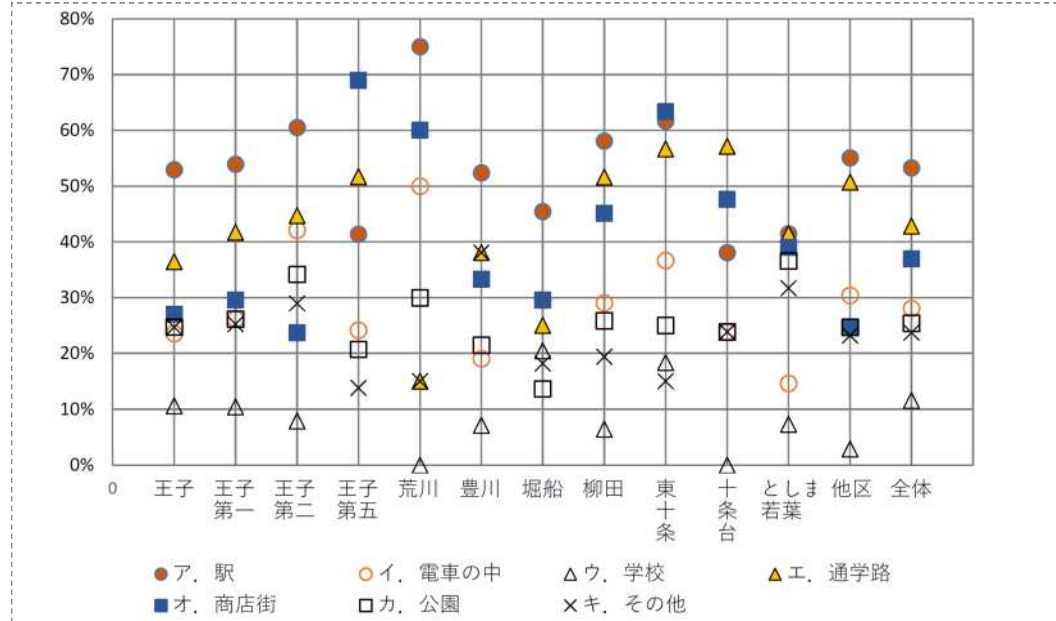
①車いす使用者との遭遇の有無／遭遇場所

全体の 8 割以上の児童が車いす使用者をまちなかで見かけており、学校の立地状況にもよるが、駅で見かける機会が特に多い。

遭遇の有無

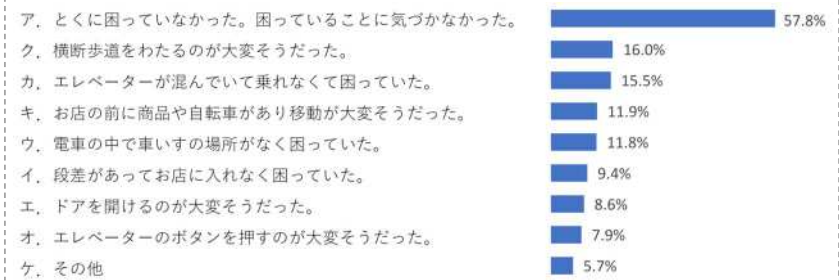


遭遇の場所



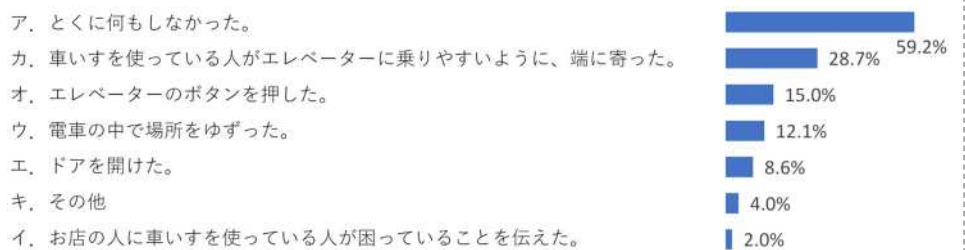
②遭遇時の車いす使用者の状況

全体の 6 割程度の児童が、遭遇した車いす使用者は困っていないように感じている。



③車いす使用者に遭遇した際の対応

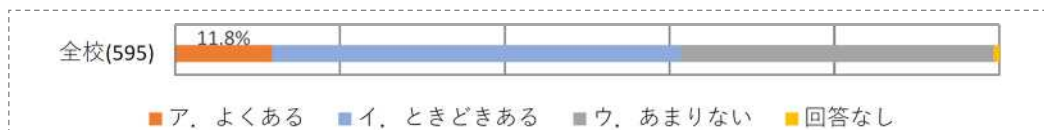
全体の 6 割程度の児童は特に何もしていないが、3割程度の児童は、エレベーターの乗車時に配慮が伺える。



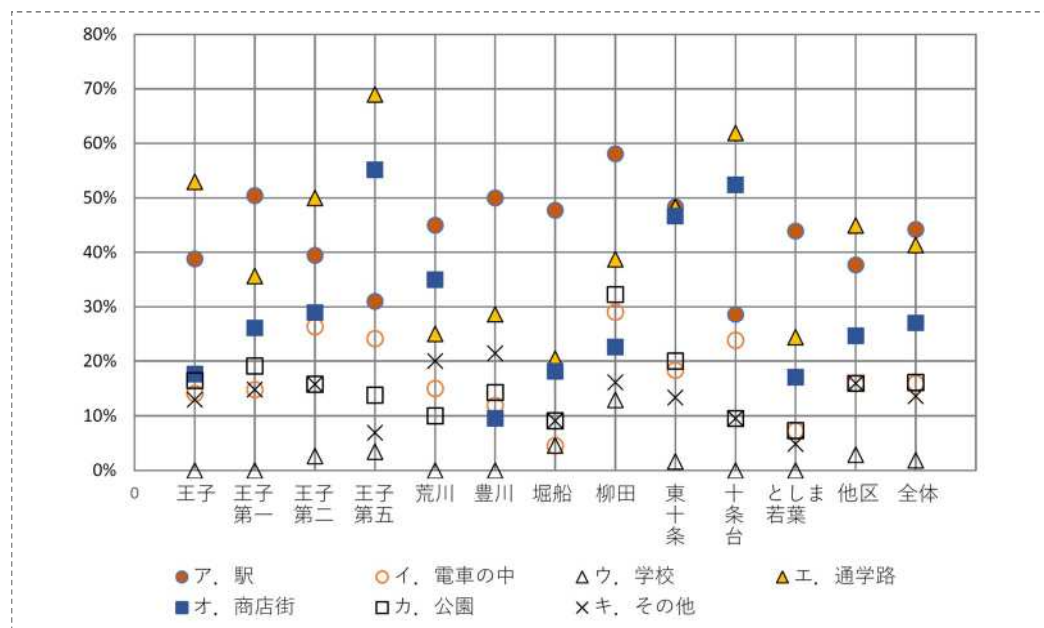
④視覚障害者との遭遇の有無／遭遇場所

全体の6割以上の児童が視覚障害者をまちなかで見かけており、学校の立地状況にもよるが、駅や通学路で見かける機会が特に多い。

遭遇の有無

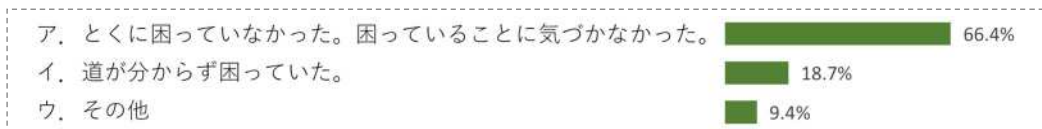


遭遇の場所



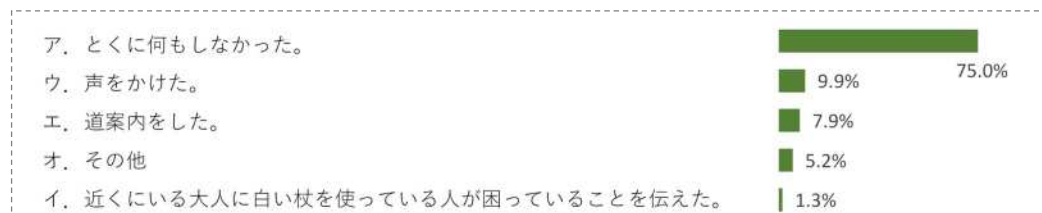
⑤遭遇時の視覚障害者の状況

道がわからず困っていた視覚障害者を見かけた児童は全体の2割程度で、全体の6割程度の児童は遭遇した視覚障害者が困っていないと感じているか、困っていることに気付いていない。



⑥視覚障害者に遭遇した際の対応

実際に視覚障害者に対して声をかけたことのある児童は全体の1割程度で、全体の7割程度の児童は特に何もしていない。



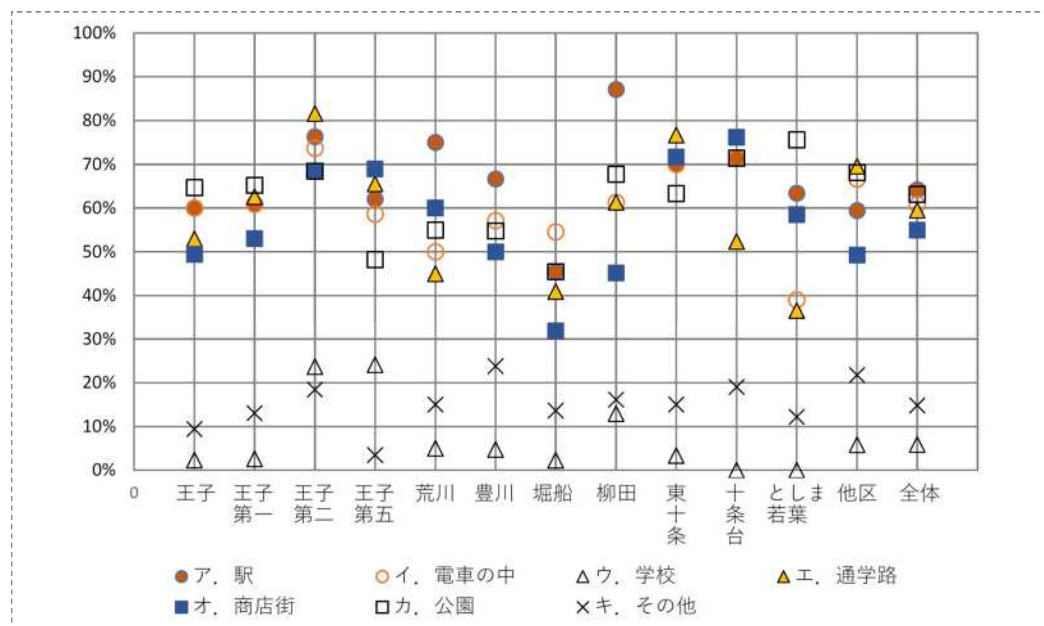
⑦ベビーカー利用者との遭遇の有無／遭遇場所

全体の9割以上の児童がベビーカー利用者をまちなかで見かけており、学校外では場所を問わず見かける機会が多い。

遭遇の有無

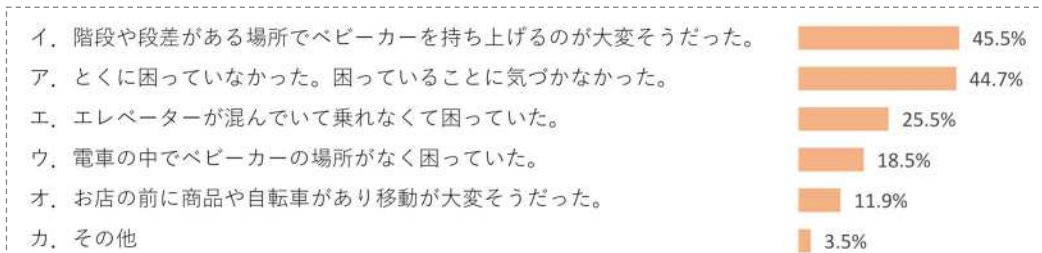


遭遇の場所



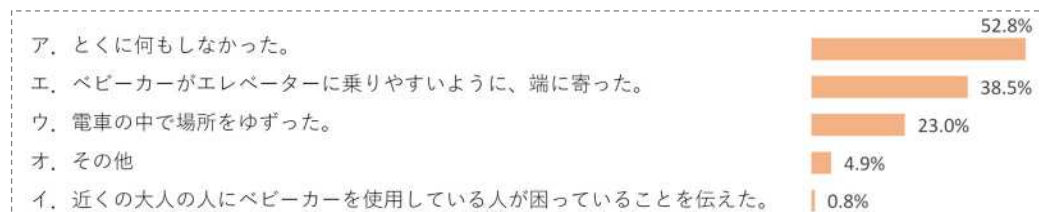
⑧遭遇時のベビーカー利用者の状況

階段や段差のある場所でベビーカー利用者が困っているように感じた児童と、見かけたベビーカー利用者は特に困っていないように感じた児童の割合が全体の4割程度と同程度である。



⑨ベビーカー利用者へ遭遇した際の対応

全体の5割程度の児童は特に何もしていないが、エレベーターの乗車時や電車内で何かしら配慮した児童は2割から4割程度いる。



【まちの「バリア」について、気付いたことや考えていること】

多様な回答が得られたが、特にハード面については、段差や上下移動、視覚障害者誘導用ブロックに関する回答が多く、ソフト面では周りの人の手伝いが重要といった回答があった。

～ 代表的な意見 ～

(ハード面)

- 段差や坂のある場所で高齢者などの人がつまずいていたので、段差をなくすべきだと思う。
- 駅にエスカレーターは多いが、エレベーターはあまり多くない。
- 視覚障害者誘導用ブロックが途中からなくなって、目の不自由な人が大変そうだった。

(ソフト面)

- バリアフリーとは、体の不自由な人などを手伝ってあげるものだと思う。
- まちの皆が、自分がよければすべてよしではなく、一人ひとりが気を遣って、困っている人を助けてあげて、その分、自分自身も助けてもらうことで、まちが良くなると思う。
- 道路などのバリアは変えることが難しいが、困っている人を助けることは気持ち次第でできるので、人の心が一番大事だと思う。

<調査結果の活用>

区内の小学生が、まちのバリアフリーに対してさまざまな視点で目を向けていることがわかったが、実際に当事者が困っていることに気付けない児童や、困っていることに気付いていても、特に何もしなかった、できなかった児童に対して、学校教育での障害理解の促進などにより改善の余地があると考えられる。今後は、協議会や区民部会でこの分析結果を踏まえた啓発の方法を検討するほか、協力いただいた小学校の学校長会議など学校関係者が集まる場において、子どもの障害者への配慮状況について共有し、子どもへの働きかけに関する具体的な方策の検討を進めていただくよう働きかけていく。

2. 令和元年度 アンケート調査

<調査概要>

区立小学校全 35 校の小学 6 年生児童を対象に、アンケート調査票を配布した。

【アンケート調査概要】

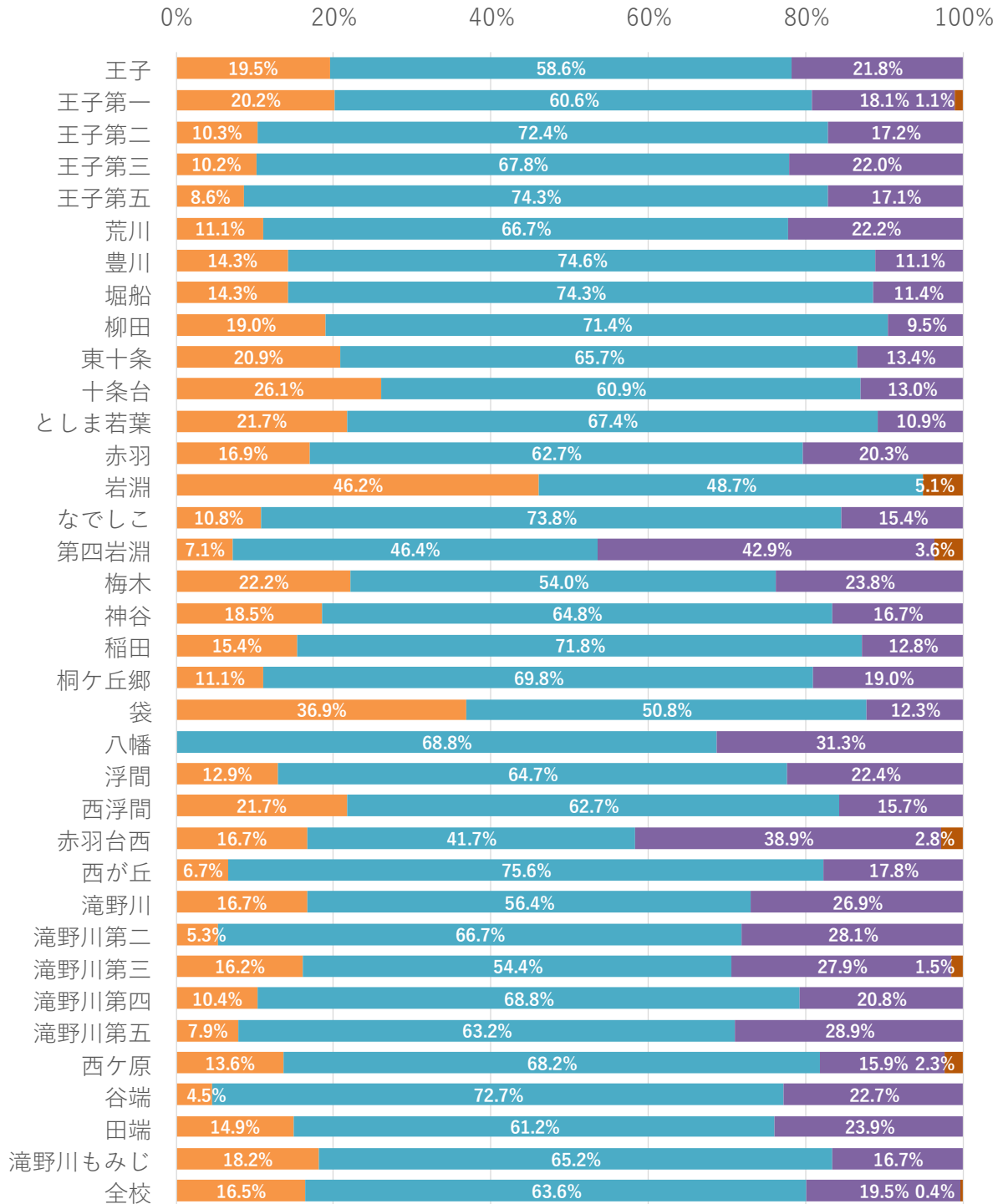
項目	内容					
調査期間	令和元年 12 月					
配布対象	区立小学校全 35 校の小学 6 年生			回収率：96%		
	学校名	配布数	回収数	学校名	配布数	回収数
	王子小学校	90	87	稲田小学校	42	39
	王子第一小学校	101	94	桐ヶ丘郷小学校	67	63
	王子第二小学校	32	29	袋小学校	70	65
	王子第三小学校	62	59	八幡小学校	16	16
	王子第五小学校	36	35	浮間小学校	87	85
	荒川小学校	27	27	西浮間小学校	88	83
	豊川小学校	63	63	赤羽台西小学校	36	36
	堀船小学校	35	35	西が丘小学校	45	45
	柳田小学校	21	21	滝野川小学校	78	78
	東十条小学校	68	67	滝野川第二小学校	57	57
	十条台小学校	24	23	滝野川第三小学校	72	68
	としま若葉小学校	48	46	滝野川第四小学校	50	48
	赤羽小学校	61	59	滝野川第五小学校	49	38
	岩淵小学校	40	39	西ヶ原小学校	46	44
	なでしこ小学校	66	65	谷端小学校	27	22
	第四岩淵小学校	29	28	田端小学校	70	67
	梅木小学校	69	63	滝野川もみじ小学校	68	66
神谷小学校	55	54	合計	1,895	1,814	
調査項目	①まちでの当事者（車いす使用者、視覚障害者、ベビーカー利用者）との遭遇の有無 ・当事者との遭遇の有無／遭遇場所 ・遭遇時の当事者の状況 ・当事者に遭遇した際の対応 ②まちの「バリア」について、気付いたことや考えていること					

<調査結果>

【まちでの当事者との遭遇の有無や対応について】

①車いす使用者との遭遇の有無

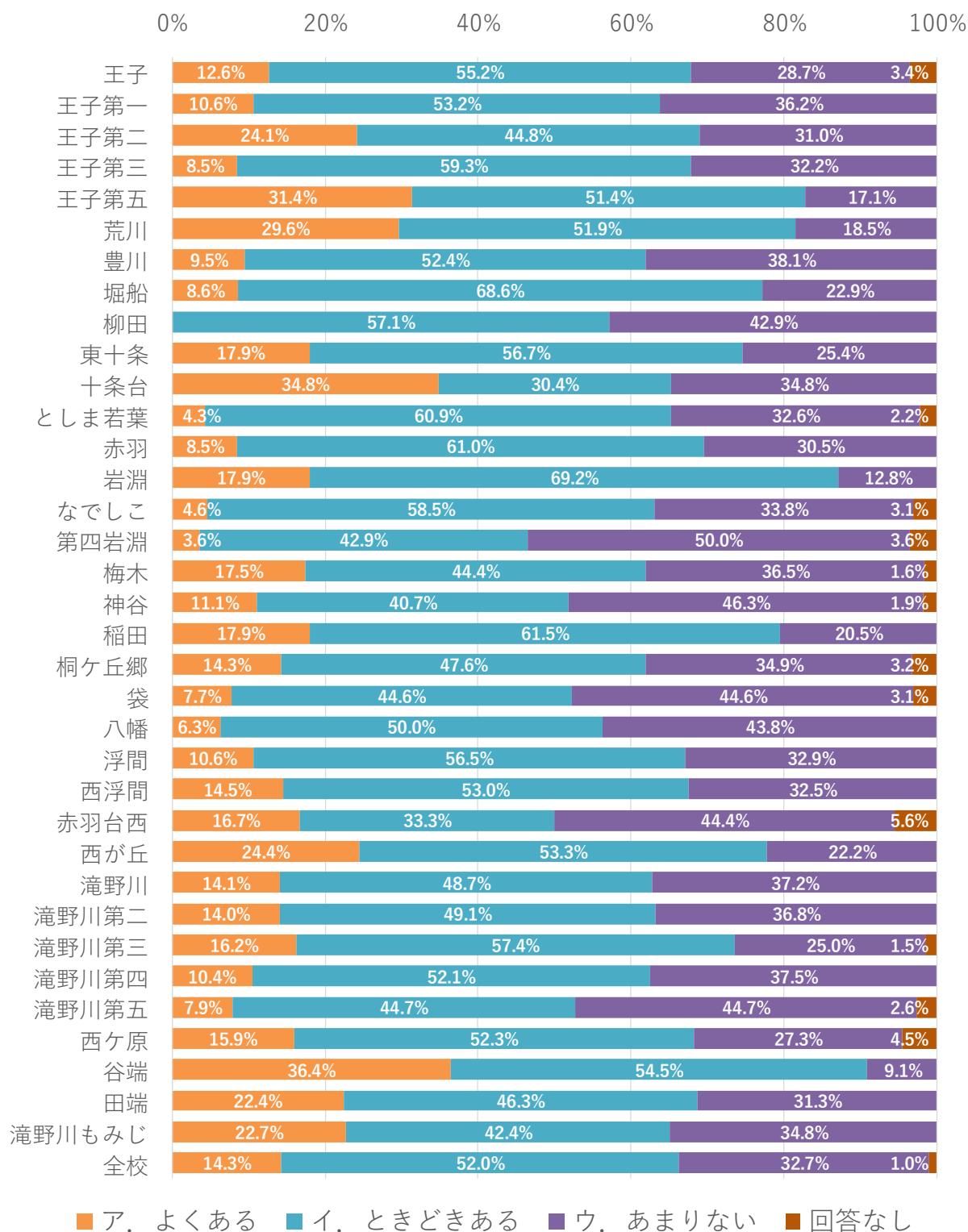
全体の約8割の児童が車いす使用者をまちなかで見かけている。特に岩淵小では95%と多い。



■ ア. よくある ■ イ. ときどきある ■ ウ. あまりない ■ 回答なし

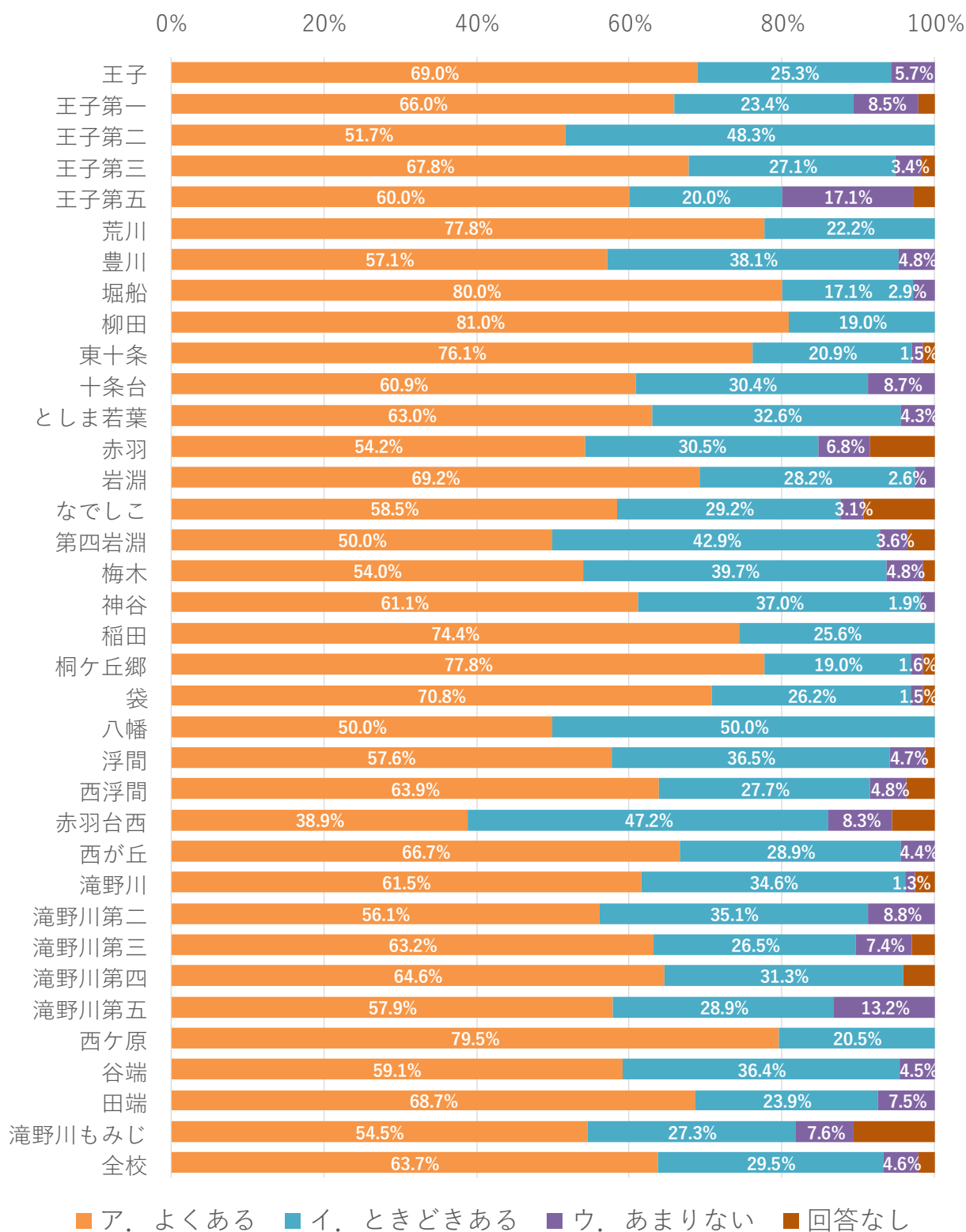
②視覚障害者との遭遇の有無

全体の約7割の児童が視覚障害者をまちなかで見かけている。特に谷端小で多い。



③ベビーカー利用者との遭遇の有無

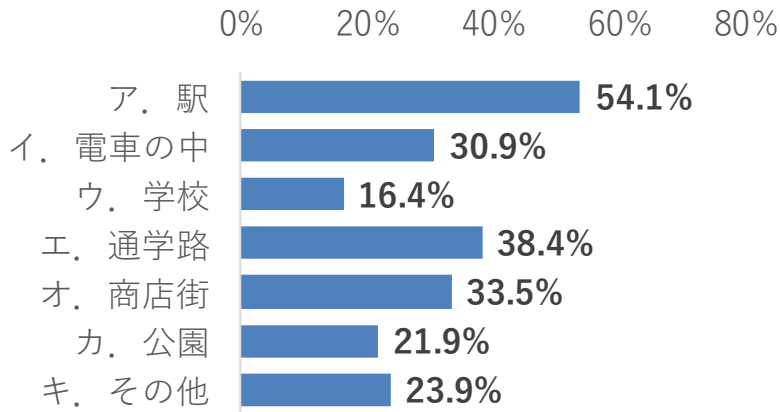
全体の8割以上の児童がベビーカー利用者をまちなかで見かけている。6校で100%の児童が「よく見かける・ときどき見かける」と回答している。



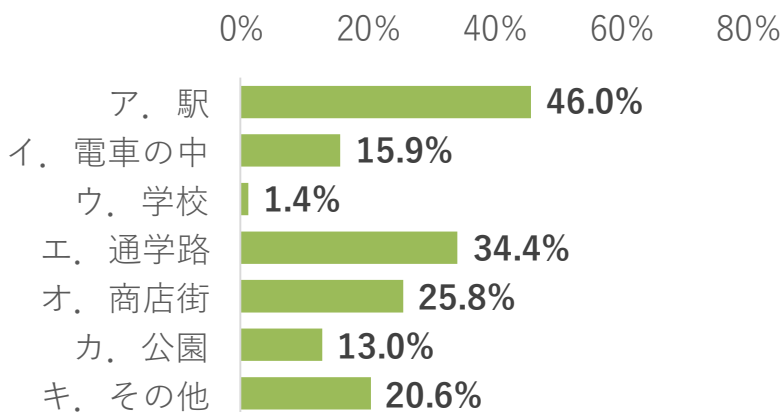
【まちでの当事者との遭遇の有無や対応について】

当事者との遭遇場所は駅が特に多いが、電車の中、通学路、商店街、公園など広く見かける機会がある。

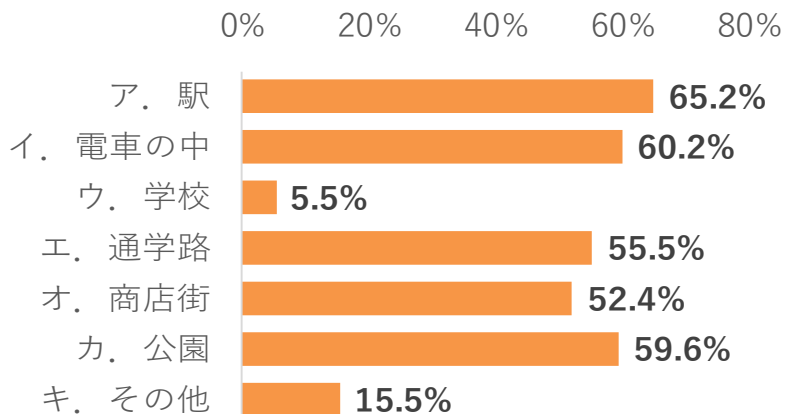
①車いす使用者との遭遇場所



②視覚障害者との遭遇場所



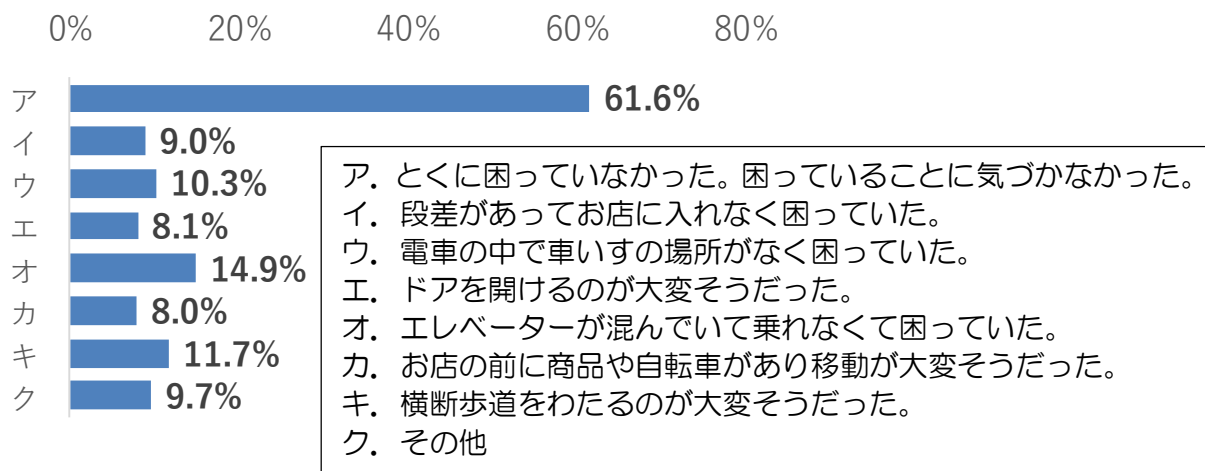
③ベビーカー利用者との遭遇場所



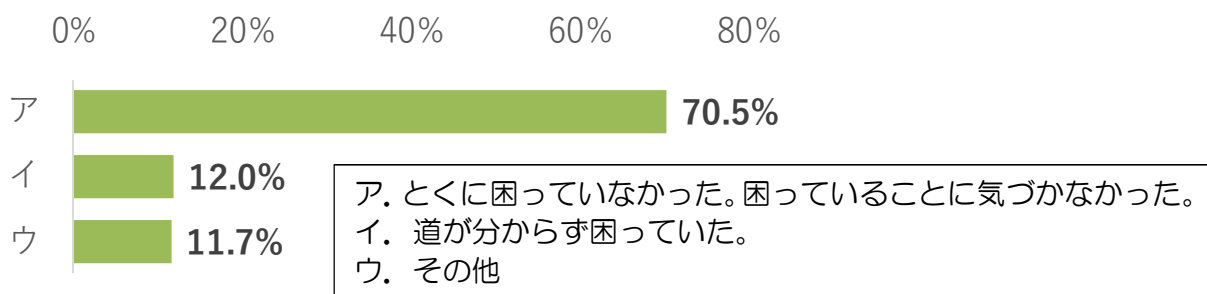
【遭遇時の当事者の状況について】

車いす使用者、視覚障害者を見かけた児童の6割～7割は困っていないように感じている一方、階段やエレベーターで困っているベビーカー利用者を見かけている児童が2割～4割いる。

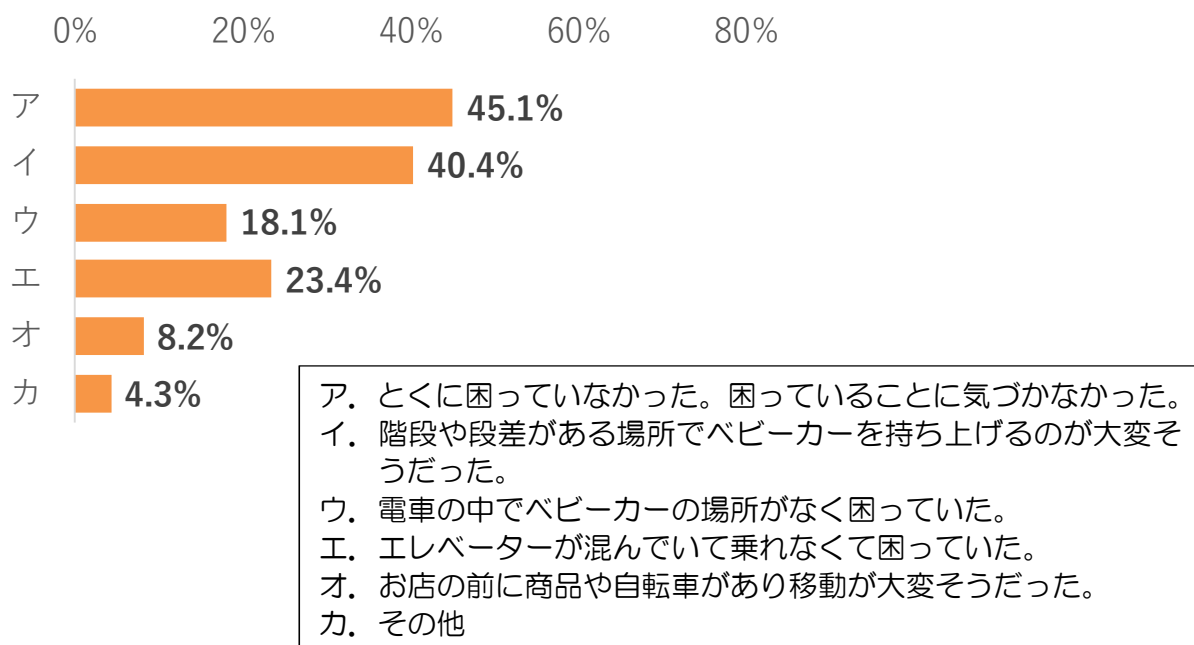
①車いす使用者の状況



②視覚障害者の状況



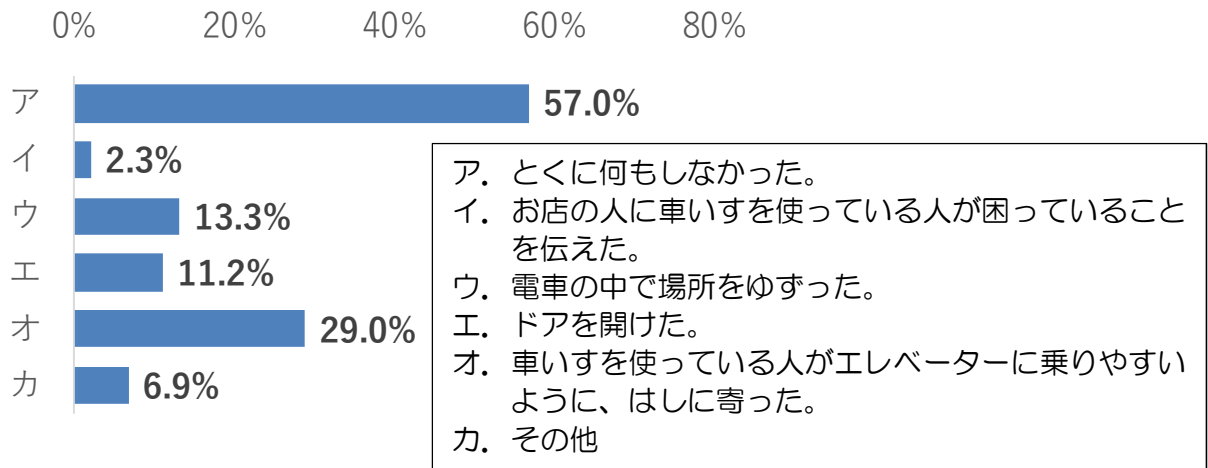
③ベビーカー利用者の状況



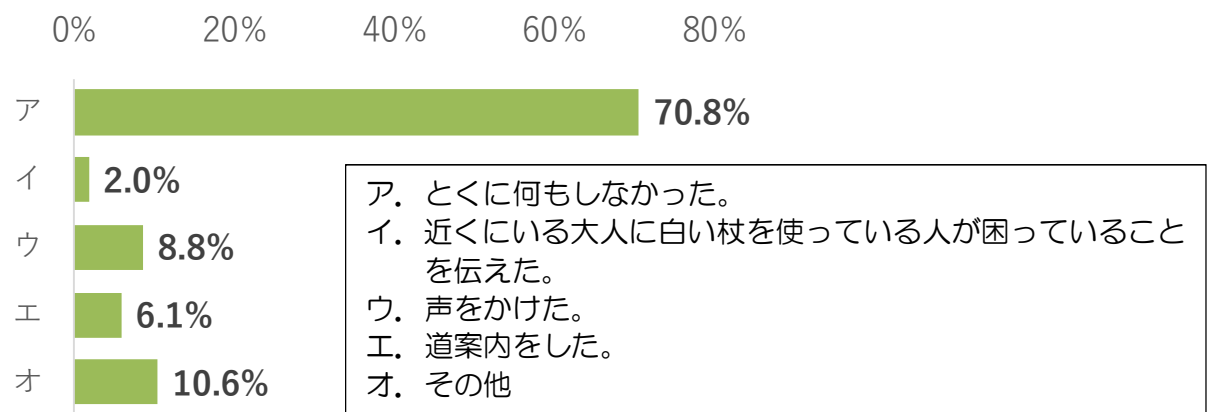
【当事者に遭遇した際の対応について】

当事者を見かけた際に何もしなかった児童が最も多いが、3割程度の児童が、車いす使用者やベビーカーがエレベーターに乗りやすいように配慮した経験がある。

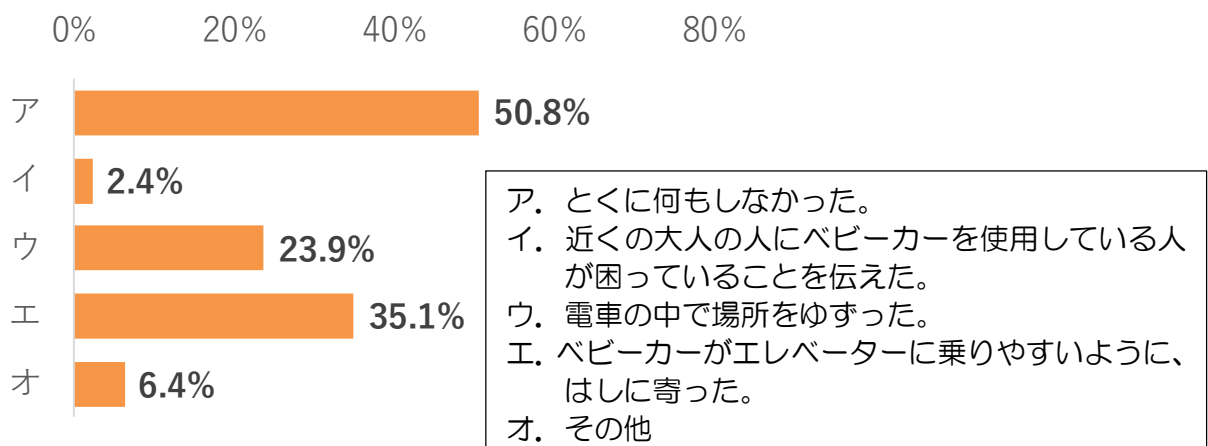
①車いす使用者に遭遇した際の対応



②視覚障害者に遭遇した際の対応



③ベビーカー利用者に遭遇した際の対応



【まちの「バリア」について、気付いたことや考えていること】

多様な回答が得られたが、特にハード面については、街のバリアフリー設備（視覚障害者誘導用ブロック・手すり・音響式信号機、車両への渡り板・多機能トイレ等）に気がついた経験に関する回答が多く、ソフト面では思いやりの気持ちを持つことが重要といった回答があった。

～ 代表的な意見 ～

（ハード面）

- 飲食店の入口や駅の出口が階段で、困っている人を何度か見た。
- 視覚障害者誘導用ブロックがすり減っていたり、消えているところがある。
- 北区はバリアフリーがたくさんあると思う。特に手すりが多い。
- 最近、バリアフリーの考えが少しずつ進んでいる気がする。

（ソフト面）

- 白いつえを使用していた人とスマホを見ていた人がぶつかりそうになって危なかった。
- 駅などのエレベーターに健康な人が乗っていて、ベビーカーを使用している人が乗れていなかったことがあった。
- 駅などで電車に乗る時、車いすやベビーカーを使っている人は、とても申し訳なさそうな顔をしている。
- 商店街で車いすに乗った人がお店に段差があって入れず困っていたところに、お店の人が声をかけていた。
- 駅の近くに放置自転車が何台もある。
- このアンケートに答えたことで、障害を持っている方が困っている時に、自分ができることを探して、助けようという考えになった。

<調査結果の活用>

今後は、協議会や区民部会でこの分析結果を踏まえた啓発の方法を検討するほか、協力いただいた小学校の学校長会議など学校関係者が集まる場において、子どもの障害者への配慮状況について共有し、子どもへの働きかけに関する具体的な方策の検討を進めていただくよう働きかけていく。

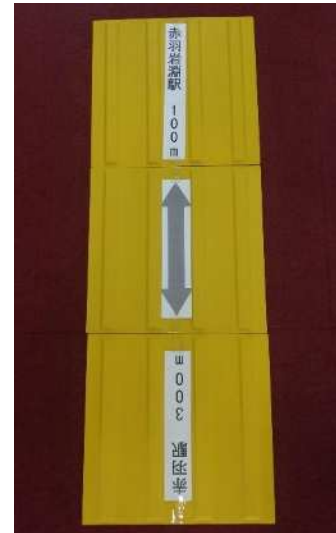
(7) 視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示の検討

<取組概要>

区の共通の配慮事項にも記載されている「視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内の設置」について、下図のように行先案内表示のある視覚障害者誘導用ブロックを試作し、区民部会・事業者部会合同意見交換会において、試作品に関するアンケート調査を実施した。今後はアンケート結果を踏まえ、試作品を改善するとともに、障害当事者を含む利用者への意見収集を行い、引き続き、実用に向けた検討を進める。

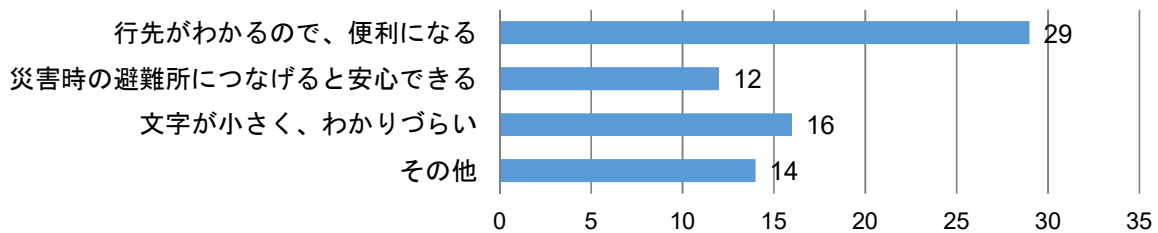
<アンケート調査概要>

項目	内容
調査期間	平成 30 年 10 月 15 日 (月)
配布対象	区民部会・事業者部会合同意見交換会 参加者
配布数	57 名
回収数	46 名
調査項目	視覚障害者誘導用ブロックを活用した駅や施設への案内表示の試作品に関する意見・感想 【回答選択肢】 ※ 複数回答 <ul style="list-style-type: none"> ● 行き先がわかるので、便利になる。 ● 災害時の避難所につなげると安心できる。 ● 文字が小さく、わかりづらい。 ● その他 (自由記述)



視覚障害者誘導用ブロックを活用した案内表示

<アンケート調査結果>



【自由意見】

- 通常の案内の補助的な表示として活用できると思う。表示方法や大きさは再考の余地があると思うが、有用な取組になるのではないか。
- 視覚障害者誘導用ブロックが案内表示とともに生活関連施設等へ連続設置されると、健全者にとっても道しるべとなり、視覚障害者誘導用ブロックへの理解促進や認知向上につながる。
- ないよりは絶対にあつた方がいいと思う。
- 案内表示があることにあまり気付かない。
- 視覚障害者の邪魔にならないのか。
- 案内表示をシールにする場合は、剥がれや経年劣化に対する検討も必要である。

(8) 区民への障害理解の取組・実践

<目的>

東京都障害者総合スポーツセンターにおいて、区民への障害理解の実践として、障害当事者と民生委員等を対象としたボッチャの体験を実施し、参加者同士の相互理解を深めた。

あわせて、平成30年度に改修された東京都障害者総合スポーツセンターを見学した。

今後も機会をとらえ、民生委員と障害当事者との交流の機会や、広く区民が参加できる障害理解の実践の場の設定を検討する。

<実施概要>

項目	内容
日時	平成31年2月5日(火) 午後1時30分～午後3時30分
会場	東京都障害者総合スポーツセンター
参加者	70名程度 (区民部会委員、民生委員(北区民生委員児童委員協議会・障がい福祉部会))
内容	<区より> ・区のバリアフリー基本構想の概要について説明 <東京都障害者総合スポーツセンタースタッフより> ・東京2020パラリンピックを見据えた取組の現状 ・日常生活におけるバリアと相互理解の必要性 ・ボッチャ体験と意見交換 ・東京都障害者総合スポーツセンターの見学



障害理解の実践の様子(ボッチャ体験及び施設見学)

【参加者の感想】

- ボッチャは男女、年齢、障害のあるなしによらず、みんなが楽しめるスポーツであると感じた。
- ボッチャがより身近なスポーツになると、こころのバリアフリーの充実につながると思った。
- もっと障害者と直接交流し、一緒に体験する機会があればよいと思った。
- センターは、さまざまな障害のある人でも、スポーツを楽しみ、能力を伸ばせるよう工夫されていた。
- 「目くばり・気くばり・心くばり」の話があり、日ごろから心がけて生活したいと感じた。

(9) VR 動画作成に向けた取組

<目的>

こころのバリアフリーの推進に向けて、小規模店舗や一般区民に働きかけることのできる取組を進めること、区で進めているバリアフリーの取組を広く知ってもらうことの必要性について意見が出された。これを受けて野口委員より VR（バーチャルリアリティー）による啓発動画の作成について提案をいただき、取組の具体化に向けた検討を行った。

<取組の概要>

年度	回	日程	主な内容
令和元年度	第2回	令和2年2月18日	1. VR 動画作成に関するアンケート調査
令和2年度	第1回	令和2年8月7日 ※書面開催	2. 区民部会委員への意見照会
	—	令和2年11月7・21日	3. VR 動画の撮影・制作
	—	令和3年1月28日	4. VR 動画の視聴・アンケート

1. VR動画作成に関するアンケート調査

第2回まちあるき点検の開催案内に合わせ、区民部会委員の協力による VR 動画の作成についてアンケート調査を行った。結果は以下の通りである。

① VR を体験したことはありますか。	<p>ある, 27% ない, 73%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
② VR 動画を制作してみたいと思いますか。	<p>制作してみたい 27% 関心はあるが、まだわからない 64% あまり関心がない 9%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
③ 制作する場合、ご協力いただけますか。	<p>はい, 18% 検討中, 82%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
④ 場面設定の案、取り上げてほしいストーリー等	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすでの目的地までの移動の苦労 ● さまざまな障害の方の意思表示の仕方 ● (弱視) 出会う人のわかりにくさ、あいさつ、アイコンタクトの難しさ ● (弱視) 見える景色 (遠景・近景・文字) と補助具の効果 ● (弱視) 駅・ホーム・交差点の危険性 ● (弱視) 見え方の多様性 (視野・視力・夜盲・昼盲など)、伴走・同行の安心感 ● 列車やバスで乗り降りしながら移動する場面 (車いす・足の不自由な高齢者・弱視・色覚障害等) ● 感覚過敏について (見え方・聞こえ方) ● 共同住宅の上階からの緊急時 (火災など) における車いすでの避難 ● 接客時、店員が車いすの本人でなく、介助者に話しかけて来てしまうことに困っている

2. 区民部会委員への意見照会

令和2年度の第1回区民部会は書面開催となったため、VR 動画の作成に関する意見照会を行った。加えて、日本工業大学で具体的なストーリー構成を検討するにあたり、体験したエピソードについて照会を行った。結果は以下の通りである。

項目	内容
VR動画の製作	<ul style="list-style-type: none"> ● VR 動画について、コロナ影響に伴う店舗変更も加味できると良い(手の消毒推奨、店員のマスク着用、ビニールシート、ソーシャルディスタンスの確保等)。 ● 車いす使用者の方の積極的な参画をお願いしたい。健常の方の気づけない思い込みが作品に残らないように、企画や編集などの各段階で当事者に入ってもらえると良い。
VR動画の普及	<ul style="list-style-type: none"> ● VR を作成して終わりではなく、それを広く観てもらおうバリアフリーの検討も必要である。
こころのバリアフリーエピソード(例)	<ul style="list-style-type: none"> ● 通路に商品があり通りにくい。 ● 店員さんの笑顔や「また来てね～」と声掛けしてもらえると嬉しい。 ● 私が買うのに、ヘルパーさんの顔を見て説明されると気分が落ち込む。 ● さりげなく扉を開けてもらえると嬉しい。

3. VR 動画の撮影・制作

区民部会の提供したエピソードを参考に、日本工業大学の学生を中心に VR 動画の作成を行った。議論、撮影の状況を以下に示す。



台本や動きの確認



撮影の様子



悪いシチュエーションのシーン



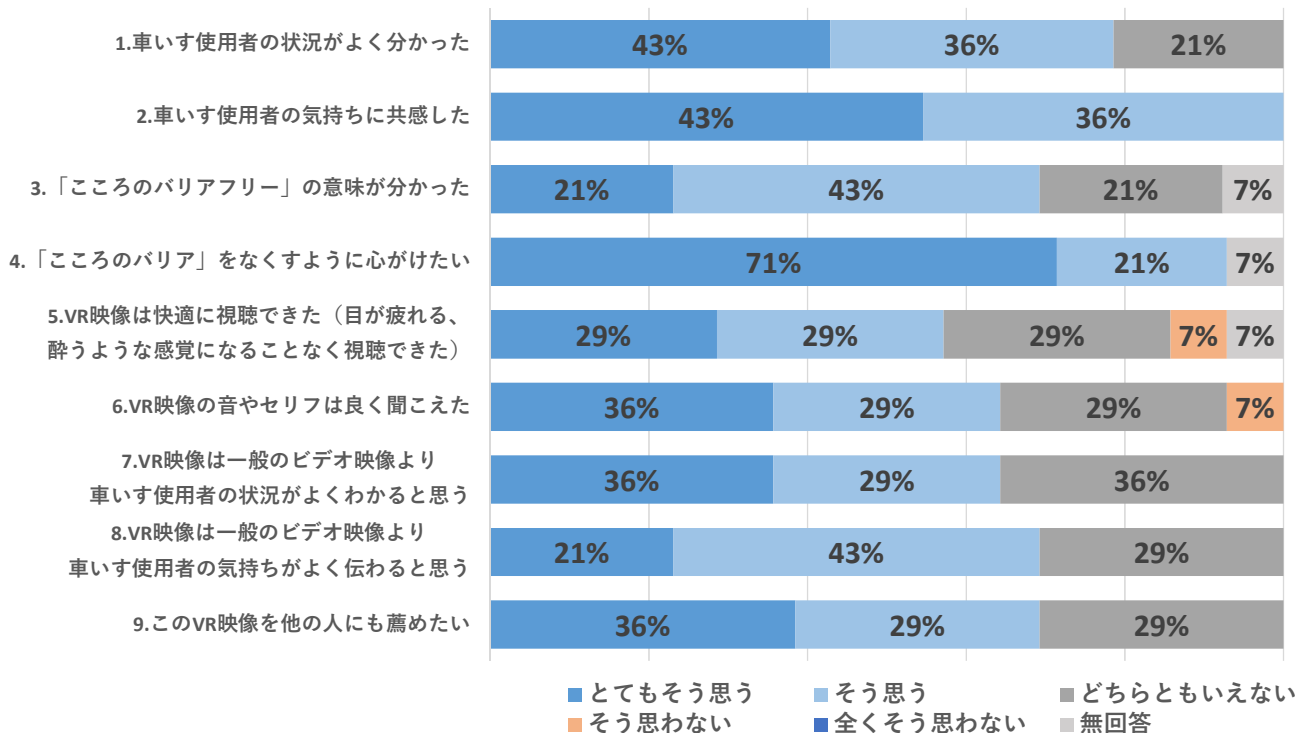
良いシチュエーションのシーン

4. VR 動画の視聴・アンケート

完成した VR 動画を体験し、日本工業大学へ意見や感想をフィードバックした。



VR 動画視聴の様子



VR 動画視聴のアンケート結果 (n=14)

【参加者の主な意見】

- 全体的によくできていると思う。
- こころのバリアフリーについては理解できたが、段差がバリアになること等、車椅子の利用上の物理的な問題点はあまり表現できていなかった。
- 下の方に表示される文字が見えにくかった。
- 他の障害についても継続して検討してほしい。
- VR ならではの 360 度画像是、介助者の様子や後方の客の様子までよくわかる。
- 気づきを促すことができる映像となっているのは良い。

今後、小中学校や福祉系のイベントなどを通じて VR 動画を活用した教育啓発を行うことを想定し、実施方法を検討していく。